

# 横田英史の 書籍紹介コーナー



## 強いAI・弱いAI～研究者に聞く 人工知能の実像～

鳥海 不二夫  
丸善出版 1,944円(税込)

東京大学准教授の著者が、第一線の人工知能研究者8人と将棋の羽生善治に行ったインタビューをまとめた書。人工知能学会の新旧会長のほか松尾豊、中島秀之、山川宏など著名な研究者が登場する。シンギュラリティの可能性や人工知能研究の展望、自動運転など、読者が知りたいポイントを上手く突いている。

タイトルになっている「強いAI」とは、意識や自我のようなものをもった人工知能を指す。例えばドラえもんで、現時点では存在しない。一方の「弱いAI」とは意識や自我はもっていないが、「知能があるかのように見える」振る舞いをする人工知能を指す。現在の人工知能が該当する。

筆者は、弱いAIの研究が進めば強いAIになるのか、強いAIはどのようにして実現するのか、強いAIは人間の脅威となるのかなどの質問の数々を研究者に投げかける。

## 大惨事と情報隠蔽～原発事故、 大規模リコールから金融崩壊まで～

ドミトリ・チェルノフ、ディディエ・ソネット、  
橘明美・訳、坂田雪子・訳  
草思社 3,024円(税込)

全世界に衝撃を与えた大事故や金融危機、経営破綻、製品リコールなど約30件の大惨事を検証し、そこから教訓を導

いた書。大惨事に共通するのは情報隠蔽、歪曲、保身、傲慢というのが筆者の見立て。しかも意図的に情報の隠蔽を行っているのが、多くは組織の中心にいる人物だったりする。本書を読むと歴史に学ばない人間の愚かさがよく分かる。

筆者はスリーマイル島原子力発電所事故、スペースシャトル・チャレンジャー号爆発事故、エンロン事件、フォルクスワーゲン・ディーゼル排出ガス不正など30件の事例を取り上げる。コンパクトにまとまっており、問題点を大づかみにするのはにはちょうどいい。各事例の最後には教訓をまとめており理解を助けてくれる。なお情報共有・公開がうまくいった例として、トヨタ生産方式やソニーのバッテリーリコールを紹介している。

## データ分析の力～因果関係に迫る 思考法～

伊藤 公一朗  
光文社 842円(税込)

因果関係の解明に焦点を当てたデータ分析の入門書。豊富な事例が理解を助けてくれる。数式的な理解ではなく、直感的な考え方の理解が重要と語る。データとどう向き合うかの勘所や陥りやすいミスの数々を解説するとともに、データ分析を行うにあたって具体的にどのような考え方や技術が必要とされるかを丁寧に説く。日経・図書文化賞をはじめ多くの賞をとっているのも頷ける。データ分析に興味のある方にお薦めの良書である。

学問的に一定のレベルを保ちながら、具体例を駆使した解説が秀抜である。MITのネグロポンテメディアラボ所長が主導したOLPC(One Laptop per Child)プロジェクトが、子供の成績に与える影響がほぼ皆無だった事実など、「へーっ」と思わせる事例が少なくない。最後にはデータ分析の不完全性や限界も明らかにする。

## 悲劇的なデザイン

ジョナサン・シャリアート、シンシア・サヴァール・ソシエ、高崎拓哉・訳  
ビー・エヌ・エヌ新社 2,808円(税込)

リスク管理の観点から製品デザインの重要性を解説した書。事例が豊富かつ具体的に分かりやすい。組み込み業界にとっても重要な指摘が含まれている。

冒頭ではデザインによって人の命が奪われた医療機器の例を挙げる。デザインによっては製品を使った人を怒らせたり、悲しませたり、失礼にあたったり、疎外感を与えることになりかねないと説く。例えば意図的に複雑にデザインされた“ダークパターン”の製品は人の気持ちを逆なでし、怒りを煽るとする。

筆者は、クリエイター第一でユーザーを二の次にし、多様性や公平さに欠けるデザインの数々を槍玉に挙げる。思いつきでモノを作り、新しいアイデアやお金、トレンドを追っているデザイン業界は本当の価値を生み出しているのかと警鐘を鳴らす。優れたデザインには、ユーザーへの共感が不可欠だと指摘する。

横田 英史 (yokota@nikkeibp.co.jp)

1956年大阪生まれ。1980年京都大学工学部電気工学科卒。1982年京都大学工学研究科修了。  
川崎重工業技術開発本部でのエンジニア経験を経て、1986年日経マグロウヒル(現日経BP社)に入社。  
日経エレクトロニクス記者、同副編集長、BizIT(現ITPro)編集長を経て、2001年11月日経コンピュータ編集長に就任。2003年3月発行人を兼務。  
2004年11月、日経バイト発行人兼編集長。その後、日経BP社執行役員を経て、2013年1月、日経BPコンサルティング取締役、  
2016年日経BPソリューションズ代表取締役就任。2018年3月退任。  
2018年4月から日経BP社に戻り、日経BP総合研究所 グリーンテックラボ 主席研究員、現在に至る。  
記者時代の専門分野は、コンピュータ・アーキテクチャ、コンピュータ・ハードウェア、OS、ハードディスク装置、組み込み制御、知的財産権、環境問題など。  
\*本書評の内容は横田個人の意見であり、所属する企業の見解とは関係ありません。